

学校教育目標	<自分大好き 仲間大好き 心かがやく上菅田笹の丘小学校> ○楽しく学び、のびのびと表現しよう。(知) ○みんなも自分も大切に、社会に貢献しよう。(徳) ○元気な心と健康な体を作ろう。(体) ○学区の特色を知り、地域の方々と共に活動しよう。(公) ○すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう。(開)				
	創立 7 周年 児童生徒数: 人	学校長 世古 正樹	副校長 栗田 諭	2 学期制	一般学級: 29 個別支援学級: 8
学校概要	主な関係校: 上菅田中学校 新井中学校 上菅田特別支援学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	○○中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	上菅田中学校 上菅田笹の丘小 学校	自ら学ぶ子ども、仲間や地域とともに学ぶ子ども ○「自ら学ぶ子ども」「ともに学ぶ子ども」の育成を目指し、9年間を見通して必要な資質・能力について明らかにし、ブロック内の共通理解を図る。 ○「授業」「人」「学びの場」の各つながりの取組内容の重点化をブロック内で図り、活動に子どもの声を取り入れながらICTを効果的に活用して各取組を充実させていく。 ○中学1年生が中学校生活の円滑なスタートを切るための小中の協力体制を強化する。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、自ら学ぶ学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進していきます。 ・1年目は、様々な解決方法から自分で解決方法を選択し、自分の考えを表現できるようにします。 ・2年目は、お互いに考えを伝え合って、解決方法を自分で見つけていくようにします。 ・3年目は、自分で課題を見つけ、その解決を図るための学習計画を自分で立てて学習を進めていくようにします。 ○地域での「人とのつながり」を意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てます。 ・3年間を通して、子どものまちへの思いを深め、学校や社会に主体的に参画できるようにします。 ○日々の観察とデータを活用しながら子どもの状況や変容を把握し、学びの充実や安全・安心な学校生活を図り、一人ひとりの自己肯定感を高めていきます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>授業改善</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究部・情報部</td> </tr> </table>	知	授業改善	担当	研究部・情報部	①課題設定を工夫し、主体的な問題発見・解決の学びを進める。②ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えをより豊かに表現し、友達と共有・比較しながら学びを深められる授業づくりを進める。③学年ごとに研究テーマを定めて研究に取り組む。色んなクラスの授業が見に行けるように、ウェルカムウィークを設ける。
知	授業改善				
担当	研究部・情報部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>人権教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>指導部 道徳部</td> </tr> </table>	徳	人権教育	担当	指導部 道徳部	①「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送ることができるように、多様な他者とかかわる場を意図的に設定し、他者を尊重する態度を育むことができるようにする。②自分のよさを見つけたり、友達のよさを伝えたりする活動を年間を通じて継続的に設定する。自己肯定感を高めていくことで、自分も他者も大切にできる子を育む。③教職員同士の児童理解を密に行い、教職員や子どもの人権意識を磨いていく。多様な機関、地域・保護者と連携し、いじめの未然防止に努める。
徳	人権教育				
担当	指導部 道徳部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>健康教育 食育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部 食育部</td> </tr> </table>	体	健康教育 食育	担当	体育部 食育部	①各家庭と協力して基本的な生活習慣の定着「早寝早起き朝ごはん」を目指し、遅刻する子どもたちを減らしていく。横浜St☆dy Naviで、自分で健康観察ができるようにする。②子どもたちの思いを大切にしながら、体育委員会が中心となって、長縄・短縄大会を行う。③教科等や月1回の食育の日の学習を通して食に関する知識を習得し、自らの食生活の課題を考え実践することができるようにする。
体	健康教育 食育				
担当	体育部 食育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公開</td> <td>自分づくり教育 (キャリア教育)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特活部・生活総合部</td> </tr> </table>	公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	担当	特活部・生活総合部	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、様々な立場の人と関わっていく中で、自分の思いを表現しながら、一人ひとりの自己有用感を高める。②学年や学級に応じて地域住民や企業、幼稚園や保育園等と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くこと、多様な人との関りの意義を考えられる場を設定する。③「自分づくりパスポート」を活用し、様々な活動に対する意欲を高め、自己をより深く見つめることができる機会を設定する。今までの記録を積み重ねることで、子ども自身の変容や成長を自己評価し、自己有用感を高めていく。
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)				
担当	特活部・生活総合部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">いじめへの対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>いじめ防止対策委員会</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	いじめ防止対策委員会	①いじめの未然防止・早期発見のために、安心して学校生活を送るための学級・学校づくりを大切にする。②児童の心情に寄り添い、ていねいな支援をすると共に、迅速で的確な組織対応を行う。③いじめの認知以降、一人ひとりの思いや願いを大切にされた支援、指導、見守りを継続的に行う。全職員での情報共有を確実に行うと共に、継続的に児童や保護者に関わる。④全職員がいじめに対する態度を高めるために、計画的な研修を実施する。
いじめへの対応					
担当	いじめ防止対策委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">人材育成・組織運営(働き方)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・総務部</td> </tr> </table>	人材育成・組織運営(働き方)		担当	教務部・総務部	①メンターチームやモデルリーダーを中心に据えて、ベテランの支えを受けながら学年や校務分掌を運営し、職員全体の底上げを図っていく。研修等のグループワークを工夫し、学年以外のつながりを強めることで職員集団の成長を図る。②グループウェアや情報機器を活用し、情報の共有化、事務の簡便化・効率化を図り、円滑な運用としていく。③専科体制や学年の教科担当の工夫、業務の分担化など効率的に働ける校務分掌やシステム構築をして職員全体が「持続可能な働き方」となる働き方改革を推進する。「チーム担任制」は、可能な範囲で実施していく。
人材育成・組織運営(働き方)					
担当	教務部・総務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">特別支援教育</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援部</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	特別支援部	①インクルーシブ教育の考え方の浸透および合理的配慮についての共通理解を図る。またそれらが必要な児童には、全職員で共通理解を図り、速やかに対応していく。②個別支援学級や配慮を必要とする児童について児童理解研修を行う。また、配慮を必要とする児童の増加、ニーズの多様化に対応できるよう職員研修を充実させる。要配慮児童の周囲の児童への指導・対応についても全職員で共通理解を図っていく。③よりよい指導・支援のために、特性により意思表示が困難な児童の支援ツールとして、ICT等を活用していく。
特別支援教育					
担当	特別支援部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">学校運営協議会 地域学校協働活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>総務部・教務部</td> </tr> </table>	学校運営協議会 地域学校協働活動		担当	総務部・教務部	①教職員も出席する小中合同学校運営協議会の熟議を通して、学校運営の推進・改善を図り、より充実した学校運営を目指す。また、学校運営協議会への児童・生徒の参画も模索していく。②「上菅田笹隊」と連携・協働し、地域教育ボランティアのさらなる活用を継続していく。③各教科やクラブ活動における見守りや支援だけでなく、教育活動の材として地域の力を取り入れ、地域の開かれた学校経営を推進していく。
学校運営協議会 地域学校協働活動					
担当	総務部・教務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">児童生徒指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>指導部・教務部</td> </tr> </table>	児童生徒指導		担当	指導部・教務部	①児童一人ひとりの実態や困り感について、職員間で定期的に情報共有する場を継続的に設定し、共通理解のもとで組織的な指導・支援を行う。②「横浜 STUDY Navi」を活用して児童の実態把握と分析を行い、子どもの思いに寄り添った支援の充実を図るとともに、指導の改善に生かす。③学校での指導や支援について、保護者へ丁寧で分かりやすい説明を行い、家庭と連携しながら児童の成長を支える体制づくりを進める。④「上菅田笹の丘小学校スタンダード」について、児童の実態や思いを踏まえながら、児童会や高学年を中心に見直しを行い、児童主体の取組として定着を図る。
児童生徒指導					
担当	指導部・教務部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">情報教育 GIGAスクール構想</td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>情報部・研究部</td> </tr> </table>	情報教育 GIGAスクール構想		担当	情報部・研究部	①学習のねらいを明確にもち、意図的にGIGA端末を利用する機会を設ける。生成AIや、アプリなど児童が必要に応じて端末利用方法を選べるように、効果的な活用方法を探求していく。②児童・教職員がクラウド上の教材などを適切に利用できるように、適切な管理・保管を続ける。③SNS等の適切な使い方やトラブルの未然防止など、情報モラルを年間通して教科に関わらず指導する。
情報教育 GIGAスクール構想					
担当	情報部・研究部				